



小澤洋介、三戸素子、P. ヤング 友の会ニュース 第10号



特別寄稿

6月25日 「イギリス館のクライネスコンツェルトハウスを聴く」

友の会会員 坪井 薫

イギリス館で、オールモーツァルトプロがあると聞いて友人は、外人墓地の脇の坂を汗を流しながら登ってきた。彼もかなりの音楽好きで、ザルツブルク詣でも大分前に済ませている。演奏者と距離をおかず、語り合うように音楽がきける、恰も遠くモーツァルト時代の宮廷サロンに思いを馳せるかの如く聴き入っていたのは彼一人ではないと思う。

当夜は、ホルン五重奏曲変ホ長調を中に挟んで前後に2曲の弦楽五重奏曲、つまり八短調と八長調が演奏された。

少し理屈ばくなって恐縮であるが、その夜演奏に魅了されたせいか、同じ室内楽なのに弦楽四重奏に比較して、弦楽五重奏曲は少し疎んぜられているような気がしてきた。

83曲もの弦楽四重奏曲を書いたパパハイドンは五重奏曲は1曲もない。では他の弦楽四重奏の達人達はどうなっているか、自分でも言うのも憚られるが、煩を厭わず調べてみた。以下弦楽の二字を省略する。

モーツァルト = 23の6、ベートーヴェン = 17の2、シューベルト = 8の1、ブラームス = 3の2、バルトーク = 6の0、ショスタコーヴィッチ = 15の0。(数字は左側が四重奏曲、右側が五重奏曲で各々作品数を示す)

ハイドンのを含む集計結果は155の11となる。なお、ポツケリーニについては後で触れさせて頂くとして、大変浅はかな疑問であるが、楽器一つ増えるだけなのに作品数にこうも差がつくのはどうしてだろうと改めて思う。むしろ一つでも多い方が表現の可能性が広がるのではないか。であれば達人達だって五重奏曲の方こそ可愛がって当然だし、こちらの方でより多くの名曲を残した筈。ところが現実のこの極端な差は何を意味するか。そこで思い直してみたのは矢張り、芸術では数合わせではないということと、もう一つは、ハイドンが発明した四重奏曲が、後世の芸術家に靈感を呼び覚まさせるに十分な楽器配置とその完璧なバランスの上に構築された形式美があったからではないか、と自問に対する答にした。

つまりヴァイオリン2、ヴィオラ1、チェロ1の編成で作曲家は自由に情景描写から自身の思想、生活を表現できるのである。ベートーヴェンやショスタコーヴィッチは、この形を借りて自分史を残したことなど良く知られている。

さてポツケリーニは実に125曲もの弦楽五重奏曲を作曲したが、大部分はチェロ2丁の五重奏曲であるとのこと、モーツァルト以後、ヴィオラ2丁がこの形式を普通の姿であると思うが、音色の印象も相当変わるのではないかと思う。シューベルトの1曲だけはチェロ2丁である。

ともあれ弦楽五重奏曲というジャンルは、モーツァルトによって比類ない芸術的高みをもたらされたのでは?と言うのが、当夜も感想である。ポツケリーニの曲は寡聞にしてきいたことがない。

当アンサンブルのメンバーにザルツブルクで研鑽を積まれた人がいることは、特にモーツァルトを奏するとき、この上ない安心感が会場を包むのを感じる。そして休憩時に、ワインとガトーが供せられることで、正にサロン・コンサートが演出されるのである。

演後、春風駘蕩ならぬ夏風駘蕩として家路につく。

参照資料(1)最新名曲解説全集 室内楽Ⅲ 音楽之友社刊
(2)モーツァルト事典 東京書籍刊

6月、恒例のオーストリア、 モンタフォン音楽祭に出演

この音楽祭に、サンクト・フローリアンが出演するようになって8年。ファンも増えて、毎年彼らの演奏を聴くために、スイスやドイツからも人々が訪れるようになりました。今年は、主催者でサンクト・フローリアンの擁護者だった、ロズマリー・フェルバーマイヤーさんが直前に急死。悲しい訪問になりましたが、故人を偲ぶ感動の演奏会が行なわれました。

出会うと、ハードな練習の毎日をおくる3人ですが、今年は一日だけオフの日を作って、山岳案内人と共にヨーロッパ・アルプスの、2000メートル級の山に登り、真っ青なりんどうの花や360度の見渡す限りの山々の大パノラマを堪能したそうです。

その後フィリップは、古楽のザルツブルクへ。素子さんは9月25日の横浜「モーツァルトの夕べ」の為に、ブダペストでクリスティーナさんとリハーサル、そしてスイスで一日干草作り(!)を手伝って帰国。洋介氏はロンドンに飛び、ティムさんのところでのリハーサルとコンサートに臨みました。

小澤洋介、ロンドンで 「ベートーヴェン・チェロソナタ全曲演奏会」

10月14日、津田ホールで世界でもまれな「ベートーヴェン・チェロソナタ全曲演奏会」を行なう洋介氏、この東京公演に先駆けて、6月12日にロンドン郊外のハーロウの音楽協会の主催で演奏会がありました。

ハーロウは、森と牧草地にかこまれた静かな町です。その旧市街にある、以前は教会で、今は公会堂になっている天井の高い趣のある建物でコンサートは行なわれました。

聴衆の中には、「ベートーヴェン・チェロソナタ全曲演奏会」ということでやってきたというチェリストもいて、「このプログラムがはたして可能なのか、ということに興味があった。今夜これを聴いてみて、これは充分可能だし、また素晴らしいプログラムだと実感した。」と終演後、楽屋に訪れたそうです。洋介さんもティムさんも、この5曲のソナタは単独では演奏したことがありますが、さすがに一晚で5曲というのは、予想をはるかに越えたハードなプログラムだったそうです。

10月14日の津田ホールが楽しみです。

友の会主催、「サンクト・フローリアン in 八ヶ岳高原音楽堂」に アサヒビールが協賛！

はじめて友の会が主催するコンサート、「サンクト・フローリアン in 八ヶ岳高原音楽堂」に、アサヒビールの協賛が決まりました。「サンクト・フローリアン三重奏団に、最高の場所で演奏してもらいたい。」という願いの友の会にとって、本当に有難い協賛です。また、八ヶ岳高原音楽堂と隣接の最高級ホテル、八ヶ岳高原ロッジの協力も得られることになり、なんとコンサートの当日11月15日(日)の夜は、あの素晴らしいホテルの宿泊が、1人6,000円から(!)になります。コンサートの開演が3時からなので、もちろん日帰りも可能です。友の会の皆様、チラシもできあがりしました。この主催の「アルコイリス」という名は、スペイン語の「虹」という意味で、会員の本野義雄氏がつけて下さいました。ぜひこの機会に八ヶ岳高原音楽堂のサンクト・フローリアンを体験しましょう。コンサート後は、3人を囲んでのレセプションも計画中です。

神戸の子供たちに楽器教室

あの神戸の大震災、3年半たった今でもまだまだ仮設住宅に住む子供達や、肉親をなくした子供達のために働いているボランティア達があります。そんなボランティア達と、サンクト・フローリアン三重奏団と縁の深い山梨の市民グループ「クラブ21」が一緒になって、神戸の子供達に素敵な夏休みをプレゼントしようと、7月27日と28日の二日間、「富士山登山」を計画しました。

「この機会に子供達にコンサートをしてあげませんか？」との依頼を受けた洋介氏と素子さん、せっかくだったら子供達に、じかに楽器に触れてもらおうと、『ヴァイオリンとチェロを弾いてみよう』というワークショップを提案、川口湖畔の円形ホールで半日楽器教室が実現しました。

当日は、友人で桐朋学園「子供のための音楽教室」で子供達に音楽を教えているベテランの加藤美知子さんも東京から同行。神戸からやってきた26人の子供達の習ったばかりのヴァイオリンにメロディーをつけてのピアノ伴奏が加わり、にわかチェ

その後は一緒に富士登山

リスト、にわかヴァイオリニスト達の気分も一人前でした。子供達も、この体験は印象的だったらしく、洋介氏や素子さんに「ねえねえ、何か弾いてよ、」とせがむなど、目を輝かせていました。

楽器教室の後は富士山登山。「この機会をのがしたら、富士山に登るチャンスはない。」と洋介氏と素子さんも参加。夕方、8合目の山小屋「白雲荘」に泊まったまでは良かったのですが、その後、天候が悪化。強い雨と風に、夜中2時の山頂の御来光めざしての出発を断念。朝方、子供達を連れて下山しました。

その後2人は、この日のために買った登山靴の手入れをしながら、「これで生涯の課題がまた一つできちゃいました。」「神戸の子供達は、お互い助け合うのに慣れているのかなあ、疲れた子の荷物を持ってあげたり、手をさすってあげたり、いじらしいほどのいたわりあいで、印象的でした。」と語りました。

なお、筋肉痛は3日ほどで治ったそうです。

コンサートのお知らせ



クライネス・コンツェルトハウス Vol. 5

三戸素子、山田耕司(Vn) 小山貴之、二宮隆行(Vla)
小澤洋介(Vc) 藤田乙比古(Hr)

8月28日(金) 上野 奏楽堂 PM 6:30

友の会割引有

ブルームス：弦楽五重奏曲 第1番 へ長調 作品88
モーツァルト：ホルン五重奏曲 変ホ長調 KV407
モーツァルト：弦楽五重奏曲 第3番 八長調 KV515

清里 萌木の村 ホール・オブ・ホールズ

三戸素子、山田耕司(Vn) 小山貴之、二宮隆行(Vla) 小澤洋介(Vc)

9月12日(土) 8:00pm ¥3500 ご予約 0551-48-3535

モーツァルト：弦楽四重奏曲 第4番 八長調 KV157
シューベルト：弦楽四重奏曲 第14番「死と乙女」二短調 D.810
メンデルスゾーン：弦楽五重奏曲 第2番 変ロ長調 作品87

素晴らしい音響の木造のオルゴール博物館。

くろよんロイヤル文化講座

三戸素子、山田耕司(Vn) 小山貴之、二宮隆行(Vla) 小澤洋介(Vc)

9月17日(木) 6:00pm ¥10,000 (ティケッ付)

信濃大町 くろよんロイヤルホテル ご予約 0261-22-1530

モーツァルト：弦楽四重奏曲 第4番 八長調 KV157
シューベルト：弦楽四重奏曲 第14番「死と乙女」二短調 D.810
メンデルスゾーン：弦楽五重奏曲 第2番 変ロ長調 作品87

天皇家お気に入りの閑静なリゾートホテル。
そろそろ紅葉も始まります。

クライネス・コンツェルトハウス《モーツァルト》 Vol.2

三戸素子/クリスティーナ・ヴェーナー

モーツァルトヴァイオリンソナタの夕 第1夜

9月25日(金) 横浜 イギリス館 PM 7:00

友の会割引有

モーツァルト：ヴァイオリンソナタ へ長調 KV376(374d)
モーツァルト：ヴァイオリンソナタ 長調 KV379(373a)
モーツァルト：ヴァイオリンソナタ 変ロ長調 KV454

ベートーヴェンチェロソナタ全曲演奏会

小澤洋介/ティモシー・レーベンスクロフト

10月14日(水) 津田ホール 6:30pm ¥4,000

友の会割引有

ベートーヴェンチェロソナタ：

第1番 Op.5-1 / 第2番 Op.5-2 / 第3番 Op.69 /
第4番 Op.102-1 / 第5番 Op.102-2

サンクト・フローリアン三重奏団 in 八ヶ岳

ヴァイオリン：三戸素子 チェロ：小澤洋介 ピアノ：フィリップ・ヤング

11月15日(日) 八ヶ岳高原音楽堂 3:00pm

シングル券 ¥7,000 ペア券 ¥13,000

ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第3番 八短調 作品1の3
武満 徹：ピトゥイン タイズ
シューベルト：ピアノ三重奏曲 第2番 変ホ長調 作品100 D929

小澤洋介、三戸素子、フィリップ・ヤング友の会ニュース 第9号

いよいよ初夏！洋介さん、素子さんもやっとひと息。

1月から4ヶ月間の活動をふりかえってみましょう。演奏したコンサートの数、2人あわせて20回、渡米2回、渡欧1回というスケジュール。演奏した曲目は、実に25曲を数えるそうです。

久しぶりにヨーロッパでのリサイタルに、「3ヶ所すべての会場から、来年も招待されました。」と嬉しそうな素子さん。「まだまだやりたいことがあるんです。」と洋介さん。「友の会ニュース第8号」で皆様のお便りを募集させて頂いていただきましたが、さっそくこれらのコンサートの数々のうち2つを、友の会会員の本野義雄さんと、三井千恵子さんがいきいきとつづってくださいました。

倅な音楽体験

クライネス・コンツェルトハウスの演奏を聴いて

本野義雄

まだあちこちに残雪が凍りついている1月23日夜、上野奏楽堂に足を運んだ百数十人は、この上なく倅な音楽的体験を共有した。それは、ウィーンが生んだ2人の天才、モーツァルトとシューベルトの代表的な室内楽が、気品と、優雅さと、情熱をもって、要するに本来あるべき姿で演奏されたからである。

モーツァルトのト短調といえ、誰もが思い浮かべるのは40番と25番の交響曲に、K516の弦楽五重奏曲だが、これらが、小林某氏の名(迷?)論のおかげでやや文学的に受け取られることが多いという不幸はあっても、とにかくよく知られているのに対し、K478のピアノ四重奏曲は、どちらかという地味な存在で、演奏される機会もそう多くはない。だが、この夜の演奏は、この曲もまた一級品であることを教えてくれた。特筆すべきはティモシー・レーベンスクロフトのピアノで、決して弦楽器を妨げることなく、終始粒の揃った音で、モーツァルトの品位と優美を表現していた。ヴァイオリンの三戸素子は抑えた表現ながら、この曲の内面性とウィーン的リズムを、明確に歌い上げた。ヴィオラの河野理恵子、チェロの小澤洋介も、控えめに確実にアンサンブルを支えた。

しかし、この夜の最高の贈物は、シューベルトの「鱒」五重奏曲であった。コントラバスの西澤誠治を加えて5人のアンサンブルは、このあまりに有名な曲に、まるで初めて聴くかのような印象を与えるほどの新鮮さと生命を吹き込んだ。三戸素子が気迫に溢れるリードをとり、他の4人が見事にそれに応えた。シューベルトにあってモーツァルトにないものは「近代人の憂愁」ともいうべき感覚だと思うが、それが決して感傷に陥らないのがシューベルトなのだ、ということが感じられた。シューベルトの音楽は、断じてめめしくもなければ、弱々しくもない。その旋律の比類なき美しさにも拘わらず、彼の芸術の本質は高貴で雄大な精神性にあるのだ、ということを確認させられた演奏であった。

飛鳥春遊コンサート随想

八ヶ岳高原 三井千恵子

「小澤洋介チェロの世界」4月18日奈良県明日香村

四月の大和路の山々は緑したたる美しい姿で車窓に映った。

近鉄橿原神宮駅に下り立つと、時間の約束の通りI.T.Cの埜口女史が美しい連れの女性と出迎えてくれた。彼女との再会は一年ぶり、嬉しい弾む心を押さえるように車に同乗した。

今夜は明日香村石舞台近くのさとびの華、飛鳥藍染織館の別邸で、小澤洋介春遊コンサートが行われる。

天保年間、150年前に建てられたという旧松村邸に藍染織館を誕生させた館長の渡辺誠弥氏は以前NHKの名アナウンサーという変り種。当時サントリー美術館で、出雲地方の藍染の大夜着に出会い、魅了されたのがコレクションの始まり。約千点のコレクションとなり、松江支局、奈良支局となったころは藍染美術館を造りたいという想いが結晶されてNHKを退職し、すべてを藍染織館の建設に注ぎ、鈴木正彦氏の貴重な土鈴のコレクション一万点の提供を受けて明日香の里に夢を実現させたのは三年前の四月一日であった。

小澤洋介氏、三戸素子さんは開館まもない頃、この館を訪れ、蒐集展示の素晴らしさ、松村旧邸150年を、見事によみがえらせた環境。館長自ら打つ蕎麦と懐石の献立を絶賛されたそうであった。以来「誠弥さん」「小澤ちゃん」と呼び合う旧知の間柄ということで、誠に不思議な人間の絵図である。

歴史を刻んだ明日香村の家並みの佇まいは私には別世界。黄昏の時刻藍染織館の潜戸に入り、長い土間を通り抜けて中庭の別邸に向かった。野の花がゆらぎ、真新しい青竹を斜めに切って作られた燈籠に火が灯り、そこ、此処、点々と足元を照らしてくれる。書院造りの床の間の前には三畳ほどの舞台が設えられ、緋毛氈が敷かれ、長い時代をくぐり抜けた飛龍の描かれた金屏風の前に一脚の椅子がその夜の主人を待っていた。

聴衆を待つ藍染の座布団もきっちりと並び、開け放たれた三方の廊下には、広い中庭の空気が漂ってくる。古い天井から意を凝らした竹と和紙をあしらった傘から、電球の明かりに遊び心が感じられる。

今夜のお客様は遠く富山からの人々と、地元奈良の音楽愛好家をまじえての様子。

定刻、小澤洋介氏の暖かい語りから始まったプログラムはバッハの無伴奏チェロ組曲第1番、演奏者の素晴らしい導きに知らぬ間に音楽の世界へ解けこんでいく。ベテラン、実力者の運びを感じさせるに十二分である。

文化のジャンルのまったく異なる人々をすっかり魅了し、さらにクラシック愛好者達をも堪能させて次のプログラムに入った。

休憩中、渡辺館長の楽しい語りに席を立つ人もなく、次の組曲第3番は正式な演奏の形式で入っていった。

アンコールは館長の名調子、朗々編の詩、朗読を入れて日本の歌二曲。会場には、いつの間にか小波のようなハミングが流れ出し、チェロの音色の余韻を残して春遊コンサートは終わった。

友の会ニュースへお便りをお寄せ下さい。

あて先：友の会事務局 神谷まさ子 〒213-0033 川崎市高津区下作延 927-6-105

FAXでもお待ちしております。 FAX: 044-854-6227

期待される、今年の自主公演

今年は10月14日(水)に東京、千駄ヶ谷の津田ホールにて3年ぶりに「小澤洋介チェロリサイタル」があります。今回はT.レーベンスクロフト氏と共演。ベートーヴェンのソナタ全5曲という凄いプログラムだそうです。「ティムさんと練習も着々と進んでいます。ぜひ聴きにきてください。」と洋介さん。

また室内楽シリーズ「クライネス・コンツェルトハウス」は夏と冬の年2回、次のvol.5は8月28日(金)に行われます。それに横浜イギリス館にて、新たなシリーズ「クライネス・コンツェルトハウス << モーツァルト >>」もいよいよ6月25日(木)に第一回目がスタートします。このシリーズはモーツァルトの町ザルツブルクに長年活動してきた2人が、大好きなモーツァルトを連続して演奏していこうというコンサートです。

その上、ついに友の会がよい環境、よい条件でサンクト・フローリアン三重奏団の最高の演奏を聴きたいと11月15日(日)に八ヶ岳高原音楽堂でコンサートを主催します。日曜日の午後ということで、日帰りも可能です。友の会は送迎等、足の便も検討中です。遠方の皆様も晩秋の八ヶ岳、自然とサンクト・フローリアンの音楽との素晴らしい出会いに、ぜひご参加ください。

皆様どうぞカレンダーをチェックしてご期待ください。

友の会会員 川野佐知子の突撃インタビュー

去る4月5日のサンクト・フローリアン三重奏団、萌木の村博物館ホール・オブ・ホールズのコンサートのプログラムより抜粋

聞き手：川野佐知子

Q サンクト・フローリアン・トリオの皆さんはそれぞれソロとしてまた、デュオやカルテットなどいろいろな形態で演奏されていますが、トリオとしてはもう10年くらい活動されていますね。皆さんにとってトリオでの演奏は特別な思い出があるのでしょうか？

A もちろんです。10年以上も苦楽??を共にしたパートナーですから…。お互いの理解は家族以上かも。

Q 毎回練習に練ったプログラムが本当に楽しみなんです、なかなか聴く機会のないような曲も取り上げていますよね。(たとえばプロッホやコーブランド、マルティヌー、ラフマニノフそして今回のスークなど)楽譜を探すのもたいへんではないかと思うのですが、そのような曲との出会いは？

A 我々の中には、なんと博士が一人いるんですよー。

Q ホール・オブ・ホールズでのコンサートも9回になるかと思いますが、ホール・オブ・ホールズでの演奏会の印象は？

A ハートマークです。

Q このさい音楽に全然関係ないことも聴いてみたいと思います。皆さんそれぞれ音楽以外の趣味があったら教えてください。

A フィリップ：骨とう、のみの市あさり(将来、値の上がりそうなものを見つける)

ようすけ：車の抜け道探し

もとこ：ただひたすらに寝る(zzz..)

Q (前にも一度うかがったことがあります)さんずの川を渡りかけたとして、何を見せられたらこの世に戻ってこれそうですか？(食べ物でも飲み物でも物でもなんでもありです)

A もとこ：とんかつ(本能が欲している)

ようすけ：えだまめ(どんぶりで食べたい)

フィリップ：えびギョーザ(中華の点心のもち米の皮の透けたやつ)

Q 最後にサンクト・フローリアンの活動予定を教えてください。その他にかメッセージがあればお願いします。

A 6月にヨーロッパ、11月15日に八ヶ岳高原音楽堂で演奏します。また、秋の骨髄バンクのキャンペーンもあります。皆様に、今年もまたお目にかかれましてを楽しみにしております。

コンサートのお知らせ



「小澤洋介チェロの世界」 パッハ無伴奏チェロ組曲

5月3日(日) 開演：PM5:00

岐阜県瑞浪市

ギャラリー「ないとう」オープニングコンサート

5月15日(土) 開演 PM5:00

愛媛県宇和島、「高橋利通作品展」

オープニングコンサート

オーストリア「モンタフォン夏の音楽祭」

サンクト・フローリアン三重奏団

6月7日(金) 開演 PM8:00

スーク：「エレジー」

ラベル：ピアノ三重奏曲

シューベルト：ピアノ三重奏曲第2番 変ホ長調 op.100

クライネス・コンツェルトハウス << モーツァルト vol.1 >>

出演：三戸素子、山田耕司、小山貴之、二宮隆行、小澤洋介、藤田乙比古

6月25日(木) 横浜イギリス館 開演 7:00

全自由席 ¥3,000(友の会割引有)

モーツァルト

弦楽五重奏曲 第2番 八短調 K406

ホルン五重奏曲 変ホ長調 K 407

弦楽五重奏曲 第3番 八長調 K515

友の会も二年目を迎えました。

新会員をお待ちしています！

楽しいニュースやコンサートの割引等の特典があります。ぜひお知り合いの方も誘い下さい！

また新年度の会員登録更新もよろしくお願ひします。

友の会事務局：神谷まさ子 TEL&FAX.044-854-6227



小澤洋介、三戸素子、フィリップ・ヤング友の会ニュース 第8号

新年あけましておめでとうございます

「クライネス・コンツェルトハウス Vol.4」1/23(金)へおいでください!

友の会会員は当日受付にて割引になります。

年2回の小澤洋介・三戸素子が主催するコンサートシリーズ「クライネス・コンツェルトハウス」はますますレベルアップ。今回は一昨年、昨年秋と日本各地で好評を博したシューベルトの「ピアノ五重奏曲ます」がいよいよ新年の奏楽堂にやってきます。ピアノはティモシー・レーベンスクロフト氏。このコンサートのためにわざわざイギリスから来てくれます。他の曲目もモーツァルトの「ピアノ四重奏曲第1番ト短調」とこれまた名曲です。もうひとつはビオラ、チェロ、コントラバスと低弦3本の面白いM.ハイドンの「ディベルティメント」です。

名曲を、やっぱり良い曲だと納得できる演奏でおとどける「クライネス・コンツェルトハウス」、新年にふさわしいこのプログラム、どうぞ御友人等おさそいあわせの上、おいでください。当日受付に、「友の会会員」とお申し出下さい。お連れの方も割引で3,000円を2,500円にて入場できます。

この際、クライネス・コンツェルトハウスを皆で盛り立てましょう。受付に事務局の神谷もおりますので、お気軽にお声をおかけ下さい。

サント・フローリアンこども病院訪問

去る11月の骨髓バンクのチャリティーコンサートの合間をぬって千葉のこども病院と福島の病院内に設けられている養護学校を訪問、めったに外に出られない病院の子供達のためにミニコンサートをひらきました。

だいたい、「どんな時でも最高の音楽を心がける」という主義の3人、こども病院ではよい演奏というより「どのように子供を元気づけ楽しませるか」というほうが大事であろう、と考え、何時間もかけてどのように進行させるか話しあいました。

そして当日は、大きな世界地図と大きなポストンバックをたずさえ病院へ。バックの中身はオーストリアの料理の本(中のおいしいそうなウィーンのケーキの写真をみせるため)、ウィーンのコーヒーカップ、ハンガリーのパプリカ(子供たちにまわしてにおいをじかにかいでもらうため)、ハンガリーの刺しゅうのテーブルセンター、モーツァルトが6才の時の作曲の手書きの楽譜、その他いろいろ...

会場となった部屋には、点滴をつけた子、感染をしないようマスクをつけた子、車イスの子、移動ベットの子供たちがやさしそうなお医者さんや看護婦さんたちと一緒にぎっしり。演奏してはお話しをし、バックの中身を取り出しては見せ、フィリップの通訳と、サント・フローリアンの3人はめまぐるしく役割を交換しつつの40分、重病の子供たちも最後まで楽しんだのでした。

コンサート後、3人は「たった40分間でしたが、普段のコンサートの2時間より慣れていないせいはずっとエネルギーがいりました。小さなお手々の拍手、病気に力をとられながらも成長していつか子供たちの表情、本当によい経験でした。福島の病院内の養護学校で、子供たちが最後にお礼に澄んだ声で歌ってくれた『もみじ』を聴いていて、この子供たちが皆、元気に生きのびられるようにと願わずにはいられませんでした。」と語りました。

特別寄稿 11月チャリティーコンサートのお手伝いをして

埼玉骨髓バンク推進連絡会会報 12月号より転載

友の会会員 外谷千春

サント・フローリアン・ピアノ三重奏の皆さんの恒例のコンサートも今年で6年目。埼玉では5回目となり、毎回譜めくりをさせて頂いて、私には特別に感激深いものがあります。

音が鳴った瞬間、皆さんの演奏は私達聴衆を世界各地へと連れて行ってくれます。モーツァルトの調べには、ただうっとりとするばかり。難解な譜面からは想像もつかない程のラヴェルの宝石を散りばめたような美しさ...。アンコールの「エンターテイナー」「からたちの花」もサービスたっぷり、会場は熱気に包まれました。

今年は千葉のこども病院も訪問してくださり、二次会では「来年はぜひ栃木に行きましょう。」といただく皆さん。一週間連続の旅の公演でその体力、気力、情熱にはただただ頭が下がります。来て頂いた友人達からも「心暖まるコンサート」「演奏者が目の前で見られてよかった。」と喜ばれました。ドナー体験をされた大川さんの司会もさわやかで、自分にも早く順番が来ないかなと思いました。

コンサートの翌日には、また次のスケジュールへと向かわれたフィリップさん、三戸さん、小澤さん、本当にお疲れ様でした。どうぞ、お体に気を付けていっそうのご活躍をお祈り致します。

たくさんのメッセージと素晴らしい音楽をどうも有り難うございました。

友の会ニュースへお便りやご意見をお寄せ下さい。

あて先：友の会事務局 神谷まさ子 〒213-0033 川崎市高津区下作延 927-6-105

連載 三戸素子のバイオリン雑話 その5

アマティのおかしな体験をもう一つ。

昨年4月のリサイタルの時のことでした。久しぶりの大事なリサイタルということで、どの楽器をひこうかさんざん悩んだ末、癌で1月に亡くなってしまったスイスのルツィアさんの形見であるグッダニーニを選びました。私にとって大事な存在であったルツィアさんを、少しでも身近に感じていたかったからです。

リサイタルの当日、東京文化会館にダブルケースにアマティとグッダニーニを入れて持っていきました。リハーサルも終わり、大変集中してコンサートに臨みました。前半が終わって、気持ちを発散させ過ぎないようにして休憩をし、いよいよ後半のためにステージの裏でケースを開け、楽器の準備をして、バルトークのハンガリー民謡集をひきに、明るくステージに出ていきました。調弦をしようと楽器をかまいたら、あら不思議、グッダニーニとばかり思っていたのに、アマティが4ヶ月ぶりに目の前にあるではありませんか。「せっかくのリサイタルなのに私をひかないのね」と無理やりのご出演だと気づき「また、やったわね。」と苦笑いしながら、舞台そでに楽器をとりかえに戻ったのでした。アマティまでが私達と一緒に舞台をささえているような気がして、ますます集中して後半も演奏できました。リサイタルにいらしたお客様はこの体験を目撃されたわけでした。(つづく)

クラシック音楽の金字塔

充実の「ベートーヴェン弦楽四重奏曲の夕べ」

去る11月22日、友の会会員、春原さんの「ギャラリーすのほら」で

全16曲のベートーヴェンの弦楽四重奏曲は弦楽奏者にとってバイブルともいえる存在だそうです。確かに、じっくり聴くと偉大なものに接する満足感は比類のないものです。「16曲全部を奏かないうちは死ねない」と小澤洋介氏がいつているのに納得できます。

そんな洋介氏のライフワークのひとつであるベートーヴェンの弦楽四重奏曲ばかり3曲集めたプログラムが、友の会の会員である春原佳幸、久乃ご夫妻が主催、「ギャラリーすのほら」で行なわれました。山梨と長野県の県境にある、八ヶ岳の麓、南アルプスを一望し、敷地内には清流が流れる素晴らしい環境で、ベートーヴェンの音楽のもつエネルギーがことのほか純粋に感じられました。神谷まさ子も川崎からかけつけましたが、それに値する一晩でした。

今年11月15日(日)友の会主催で「サント・フローリアン三重奏団」コンサートを企画中 とびきりのホール、八ヶ岳高原音楽堂で

多くの友の会の会員がいらっやいます八ヶ岳周辺。ここには、知る人ぞ知る素晴らしい室内楽ホールがあります。有名なピアニスト故S.リヒテルや、チェロのヨー・ヨー・マ等が、とても気に入って演奏をした深緑の森の中の木造の演奏空間、「八ヶ岳高原音楽堂」。このホールにサント・フローリアンの音楽を響かせようではないか、と友の会が立ち上がりました。東京・その他遠方からも聴きに行けるよう、車での送迎、また素敵なペンションでの宿泊も計画中です。このコンサート実現に少しでも貢献しようという方のために一口一万円で協賛・広告も募集します。友の会の初の自主企画です。皆様ぜひ御参加ください。

コンサートのお知らせ

**三戸素子・小澤洋介二重奏その他**

1月10日 若芽の会チャリティーコンサート

ラヴェル： ヴァイオリンとチェロの為にソナタ

ラヴェル： ハープ七重奏曲

上記の2曲に出演

目黒区民センター 6:30 開演 ¥999(収益金はユニセフへ)

新春ベートーヴェンの調べ、ミートス弦楽四重奏団

三戸素子、山田耕司、小山貴之、小澤洋介

1月16日(金) ベルク(フランス料理レストラン) 開演7:00

¥6000(ワイン・料理・税共)

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲

第11番 作品95「セリオース」

第2番 作品18の2

第9番 作品59の3「ラズモフスキー第3番」

お問い合わせ：山梨県北巨摩郡双葉町竜地 3452

TEL0551-28-4688

クライネス・コンツェルトハウス Vol.4

出演：三戸素子、小澤洋介、ティモシー・レーベンスクロフト(ピアノ)

河野理恵子(ピオラ) 西澤誠治(コントラバス)

1月23日(金) 上野、奏楽堂 開演6:30

全自由席 ¥3,000(友の会割引有)

モーツァルト：ピアノ四重奏曲第1番 ト短調

M.ハイドン：ディベルティメント

シューベルト：ピアノ五重奏曲「ます」

小澤洋介 友の会会員で作曲家の後藤国彦氏の新作を演奏

2月25日(水) すみだトリフォニーホール

お問い合わせ：後藤国彦 03-5313-1399

小澤洋介がゲスト出演 室内楽の楽しみ XI

小澤洋介、工藤由紀子(バウリン)、金元(クラリネット)、金詠子(ピアノ)

2月26日(木) パルテノン多摩小ホール PM7:00 開演 ¥2500

プログラム：クラリネット三重奏曲

ラヴェル：ピアノ三重奏曲

お問い合わせ：金詠子 0423-74-5404

三戸素子/クリスティナ・ヴェーナ デュオリサイタル

2月28日(土) ブダペスト・リスト記念館 AM11:00

3月10日(火) オーストリア・バード・タツマンス・ドルフ

モーツァルト：ソナタ

プログラム：ソナタ第三番

ほか

友の会も二年目を迎えました。

新会員をお待ちしています！

楽しいニュースやコンサートの割引等の特典があります。ぜひお知り合いの方もお誘い下さい！

また新年度の会員登録更新もよろしくお願ひします。

友の会事務局：神谷まさ子 TEL&FAX.044-854-6227



小澤洋介、三戸素子、フィリップ・ヤング友の会ニュース 第7号

すっかり秋になりました。
今年の夏は何をしていたのでしょうか？

6月8日 サンクト・フローリアン三重奏団オーストリアの音楽祭に出演

毎年恒例のオーストリア・モンタフォン音楽祭。事務局の神谷まさ子さんも同行しました。ヨーロッパでも着々とファンが増え「来年もサンクト・フローリアンの演奏会に合わせてモンタフォンに来ます」という方が何人もいらっしゃいます。山々に囲まれ、高山植物が咲きみだれる、ちょっと素敵な環境です。プログラムは、ラフマニノフの「エレジー」、ベートーヴェンのピアノ三重奏曲第6番とメンデルスゾーンのパiano三重奏曲第2番でした。

このコンサートの前後にリハーサルをかねてハンガリー・イギリス・フランス等にも滞在。洋介氏はロンドンで、ちょうどパトロンであるロイヤルバレエの公演を観にきていたダイアナ妃をすぐ間近で見ました。

7月20日 クライネス・コンツェルトハウス Vol.3 in 奏楽堂

プログラムは珍しいベルワルドの七重奏曲とおしゃれなニールセンの小品、名曲ベートーヴェンの七重奏曲の3曲で、いままでにも増して息のあった良いコンサートになりました。このシリーズは次回は来年1月23日(金)にいつもの上野、奏楽堂にて行なわれます。

7月26日～7月30日 九州骨髄バンクキャンペーン

サンクト・フローリアン三重奏団で熊本、鹿児島、福岡でコンサート。

大型台風の隙間をぬって間一髪で飛行機が飛び、無事九州入りすることができました。フィリップは九州ははじめて。プログラムはショパンのピアノ三重奏曲、シューベルトの「ノクターン」そしてベートーヴェンの第6番の三重奏曲。

8月10日 東京・青山カワイサロンにて、小澤洋介、三戸素子の

お弟子さんの会「クラスコンサート」が開かれました。

9月1日 待望の三戸素子、クリスティーナ・ヴェーナーデュオリサイタル、CD発売。

今年4月7日の東京文化会館でのリサイタルのライブ録音がCDになりました。

9月5日 横浜イギリス館にて、小澤洋介、三戸素子のバイオリン、チェロの二重奏の夕べ

横浜「港の見える丘公園」の旧イギリス領事館である「イギリス館」で、優雅な雰囲気の中、ラヴェルとコダーイの二重奏曲という二曲編成のプログラムでの一夜。

9月14日～9月17日 昨年に引続きT.レーベンスクロフト氏を迎え、山梨、長野の三会場でコンサート

お気に入りのホールである山梨県清里のオルゴール博物館「ホール・オブ・ホールズ」、やはり山梨県で、美容院とエステとギャラリーが一体化して贅沢な空間を持つ画期的なビューティーサロン「アートリウム・サワ」、そして緑にかこまれたリゾートホテル「くるよんロイヤルホテル」とどの会場も充実したコンサートになりました。モーツァルトのピアノ四重奏曲とM.ハイドンの三重奏曲、そしてシューベルトのピアノ五重奏曲「ます」と名曲ぞろい。このプログラムは好評につき、来年の1月のクライネス・コンツェルトハウス Vol.4 で東京でも演奏する予定です。

フィリップ・ヤングのお兄さん夫妻、日本へ初訪問

7月末の骨髄バンク、九州キャンペーンの時期に合わせてフィリップのお兄さんのスティーブさんと奥様のカレンさんが12日間、日本に滞在しました。スティーブさんは薬品会社に務める科学者、カレンさんは看護婦さんで、二人は日本の文化、特に陶芸に興味を持っています。

来日した日が台風、ドラマチックな幕開けでしたが、最初の日本での観光が雄大な熊本城となかなか順調な滑りだし、鹿児島の磯公園や薩摩焼窯元訪問、博多港の魚市場、京都2泊3日に新宿新都心や原宿・東郷神社の骨とう市、山梨県清里の野外バレエ鑑賞と充実の日程を終え、無事フィリップと一緒に帰国しました。

フィリップもいつもはコンサート前日に来日してコンサート後翌日発つというぎりぎりの来日ですが、今回は珍しくゆったりと日本を楽しむことができました。

ちなみにフィリップさんは4人兄妹の3番目。



三戸素子バイオリン雑話 その4

私のアマティで、ちょっと不思議な感じがしたのは、カーネギーホールでの体験が初めてではありません。

一番最初は、4年前の秋のことでした。私の手元に来たばかりのグッダニーニに夢中になって半年ほどアマティを弾かないでいたある日、いつものように弾こうと取り出したところ、手のなかにあるのはアマティでした。「私を弾いてよ」と楽器が言ったような気がして、驚きのあまり胸がドキドキしました。そして今まで知っていたバイオリンが、私の手の中で急に別の生き物になったようで、正直言ってぞっとしました。それ以来、彼女と私は、以前より「生身の関係」になったような気がします。これは私の錯覚かもしれないし、ただの偶然かもしれませんが。でも彼女とつきあって20年、15年目にしてはじめて彼女が340年にわたる彼女の歴史の1ページに私を加えてくれたのかもしれないと思ってしまうのです。(つづく)

友の会も二年目を迎えました。 新会員をお待ちしています！

楽しいニュースやコンサートの割引等の特典があります。ぜひお知り合いの方もお誘い下さい！

また新年度の会員登録更新もよろしくお願ひします。

友の会事務局：神谷まさ子 TEL&FAX.044-854-6227

コンサートのお知らせ



三戸素子、小澤洋介二重奏

10月1日 岐阜県 明智 もみじホール
コダイ：バイオリンとチェロの為の二重奏曲

小澤洋介チェロの夕

10月25日三重県 菰野町 ひもろぎ園
15:00 火おこしの儀
17:00 講談 神田北陽ほか
19:00 小澤洋介無伴奏チェロの夕
バッハ：無伴奏チェロ組曲
コダイ：無伴奏チェロソナタ

三戸素子、小澤洋介二重奏曲の夕

11月2日 神奈川県 藤野 丹陽園
モーツァルト：二重奏曲よりロンド
バッハ：無伴奏バイオリンの為のパルティータよりガボット
バッハ：無伴奏チェロ組曲より
コダイ：バイオリンとチェロの為の二重奏曲

Beethoven & Bartók

三戸素子(Vn) クリステイナ・ヴェーナー(Pf)
デュオリサイタルがCDになりました。



好評発売中

¥2800 (税込定価)

ベートーヴェン：ソナタ第5番
へ長調作品24「春」
バルトーク：ソナタ：第2番
バルトーク：ハンガリー民謡集

この4月、東京文化会館でさわやかな印象を残したあのコンサートのライブ録音がCD化されました。お問合せ、またお申し込みは、



お問合せ：プロアルテムジク
お申込み 〒112 東京都文京区大塚 5-7-11-104
TEL.03-3943-6677 FAX.03-3943-6659
または：三戸素子
〒359 所沢市上安松 1 番地
TEL.0429-45-6326 FAX.0429-45-6329

サンクト・フローリアン三重奏団

骨髄バンク秋のキャンペーン

11月10日 新宿モノリス・アトリウム 12:20
11月10日 新宿文化センター 18:30
11月12日 福島市
11月13日 佐倉市ユーカリCATVホール 19:00
11月14日 千葉こども病院 13:30
11月14日 君津市民文化ホール 19:00
11月15日 浦和バプテスト教会 18:30

ウェーバー：ピアノ三重奏曲 ト短調
モーツァルト：ピアノ三重奏曲 第4番 変ロ長調 KV502
ラヴェル：ピアノ三重奏曲

お問合せ/全国骨髄バンク推進連絡協議会 03-3356-8217

サンクト・フローリアン三重奏団、バレエとの競演

11月16日 山梨県 韮崎市文化センター

ミートス弦楽四重奏団、ベートーヴェン四重奏曲の夕

三戸素子、小宮直、河野理恵子、小澤洋介

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲
第11番 作品95「セリオース」
第3番 作品18の3
第9番 作品59の3「ラズモフスキー第3番」

11月20日 AUDIO&喫茶「カナン」 川崎市 笠幡

お問合せ 0492-34-5515

11月22日 長野県 富士見町 「ギャラリーすのはら」

お問合せ 0266-64-2121



小澤洋介、三戸素子、フィリップ・ヤング友の会ニュース 第6号



三戸素子、クリスティーナ・ヴェーナー デュオ・リサイタル Q&A

東京文化会館、山梨県大泉村のペンション「ふぁみりい」、川越の「カナン」と充実のバルトーク/ベートーヴェンプログラムを繰りひろげた4月、これを機会に新会員も増えました。友の会事務局の神谷まさ子が、素子さんに、リサイタルを終えてのQ&Aです。

神谷 私の感想では、あんな新鮮なベートーヴェンの「スプリング・ソナタ」を聴いたのは久しぶりででした。他のプログラムも素晴らしかったです。事務局に寄せられた新会員をはじめとする感想を中心にお尋ねします。

Q. 東京文化会館での赤と黒のドレスは？

A.(三戸) オスカー・デ・ラ・レンタのデザイン。アメリカで見つけました。左側にしかついていないのですが、袖が細身で、動かすのに少し不自由なためできるかぎり幅を広げるようなおしました。

Q. 東京文化会館、そして「ふぁみりい」で当日配られたプログラムは非常にオリジナリティーのあるものでしたが...

A. 今回は「自然の声、様式と構築」というテーマ、文章にしたら本が一冊くらいになってしまいそうなので、皆様ご自身で独自にイメージを持っていただけるよう、写真と資料に徹しました。洋介さんが得意のコンピュータを駆使して創ってくれました。

Q. そのプログラムに使われたバルトークの写真について、新会員の坪井さんから、珍しいものなのか、との問合せがありました。

A. 若き日のバルトークが、ハンガリーの田舎をまわって民謡を採取している写真は、ハンガリーのバルトーク記念館で絵ハガキになっていたのを見つけました。また、「自然の声」にふさわしいバルトークの写真はなかなか見つからず神奈川県立図書館の司書である、友の会事務局の神谷まさ子さんに依頼、ハンガリーの本を日本版にした「写真と資料で見るバルトークの生涯」(フィレンツ・ポーニシュ編著、国際文化出版社)を紹介していただき、その中から使いました。この本は、素晴らしい写真が数多く掲載されています。

Q. クリスティーナさんとは「全然目も合わせないのに息がぴったり」との感想が寄せられていますが、お二人に何か「聴こえない言語」とか「見えない合図」とかがあるのですか？

A. 彼女とは2年前、はじめて出会ったときからぴったりでした。今回のプログラムのためにだいたい100～150時間位は練習しましたが、曲の解釈について、また響きについての共同研究で、二人一緒に曲を作りましたので、「聴こえない言語」があるとすれば、それは二人でイメージするバルトークであり、ベートーヴェンの曲といえるかも知れません。

Q. これは私からの質問ですが、文化会館でのリサイタルで休憩のあとのバルトークの民謡集の時、一回ステージに出てきて急にまた楽屋に引っ込んで、そして改めてまた出てきましたよね。あれは何故ですか？

A. あの日、ステージの裏にグッダニーニとアマティの二つのバイオリンを持って来ていました。グッダニーニを持って出たつもりで、ステージの上で調弦をしようとしたら、間違っておアマティを持って来たことに気づきました。それで取りかえに戻ったのですが、もっと詳しい話は次号の連載「三戸素子のバイオリン雑話」でご紹介しようと思います。

神谷 クリスティーナさんとのデュオは、来年ハンガリー・ブダペストのリスト記念館ホールで2月にコンサートが予定されているそうです。また東京文化会館でのリサイタルが多くの方々要望にこたえて、ライブ録音がCDになる計画が進められています。

来る7月20日(日)、クライネス・コンツェルトハウス Vol.3



いつも楽しいクライネス・コンツェルトハウス。今回のプログラムは、ベートーヴェンが当時のウィーンで大成功を収めた「七重奏曲」と、ドイツ、ベーレンライター出版が昨年あらためて世に出し注目の作曲家フランツ・ベルワルド(1796年生～1868年没、シューベルトの頃)の「大七重奏曲」との組みあわせで、おおくりします。4月のNHK放送も好評で、クライネス・コンツェルトハウスのメンバーは、ますます快調です。会員の皆様にはチケットの割引があります。

読者の質問コーナー

お寺などの木造建築は残響豊に造られている、と聞きました
が、コンサートには良いのですか？

(4月15日サント・フローリアン「円覚寺・骨髄バンクチャリティー
コンサート」の際、入会を希望された方からの質問)

ヨーロッパでの教会同様、日本のお寺でもお経や声明、そして
鐘などがよく響くように設計されているということをよく聞きます。
ヨーロッパなどの教会の場合、石造りで極端に天井を高くして
音を反響させることにより長い残響を得ています。これに対して
お寺では楽器を奏でると、床、柱、天井、障子や襖などが共振
を始めます。(特にチェロの場合、エンドピンで床に立てて演奏する
ので床のびんびん震えます。) そうなるとお寺の建物自体がまた
もう一つの楽器になったような感じですね。ですからちょっと臨
場感は薄れるけどお寺のコンサートは建物自身が響いているので
そとで聴くに限るなんていう人もいます。でもやっぱり中で聴い
てくださーい。(小澤洋介)



**サント・フローリアン三重奏団
恒例、春の山梨 Club21 の演奏会終わる。**

毎年、山梨県下で行われるユニークな市民グループ、Club21 主催のコンサートは今年も6会場で行われました。

第一夜は、甲府の三澤美弥子さん主催で石和町のスコレーセンター。第二夜は、河口湖円形ホール。このホールは個人が河口湖畔、富士山の真正面にアール・ヌーボー風のホールを建て、それを町に寄贈してしまった、という今どきまれな、良い話。そのすてきなホールで、これまた型破りな行動派の県庁勤務の公務員、堀内久雄氏の主催で本格的コンサート。

第三夜はサント・フローリアンのホームグラウンド、上質でちょっと特別な音響の中での清里、萌木の村のオルゴール博物館、ホール・オブ・ホールズのコンサート。一日おいて、あの上九一色村のとなり、いまだに土葬がおこなわれているという芦川村で、川野佐知子、野沢今朝幸ご夫妻が悲願、「芦川村でもクラシックコンサートを！」を実現させ、自宅の風雅な木造ホールでうらかな日曜の午後、戸外の優雅なワイン・ブレイクと共に村人多数の参加がありました。

夜は中富町のお寺青原院で、手漉き和紙の第一人者である宮本重男氏が主催、はじめてコンサートが行われましたが、ヘール・ポップ彗星の輝く中、桃の花を大胆に活けた本堂の満員の聴衆のもと行われ、大成功でした。でも午前中「ピアノって右向き右向き？ それとも左側におくんだっけ？」と悩んだというひと幕もありました。

最後は、地に足が付きながらもとんでいるブドウを作るお百姓さん、三森修氏主催の勝沼ぶどうの丘のホールで、華やかに今年のClub21 のコンサートも終わりました。年々回を追うごとにレベルの高くなるこのシリーズ、「主催者文化」を感じます。

三戸素子、クリスティーナ・ヴェナー、

山梨大泉村でも感動の一夜

八ヶ岳山麓のふもと、霧の立ちこめる森の中、ペンション「ふあみりい」にて4月5日夜、三戸素子、クリスティーナ・ヴェナー / デュオリサイタルが開催されました。

2年間かけて準備された、この二人のバルトーク & ベートーヴェンプログラムを山梨県でも聴こうと、友の会会員の三井千恵子さんが主催して下さったものです。東京でのコンサートとはまた違った、少人数、大自然の中の凝縮されたコンサートに地元はもとより東京、名古屋からも人々が集り、思いもかけず山梨、東京、名古屋の友の会の会員の交流の場ともなりました。素子さん、クリスティーナさん二人も「念入りに準備し、作りあげたプログラムを一回でも多く聴いていただける機会を作って下さって感謝しています。演奏する側にとってこういう機会の積み重ねが本当に貴重なのです。」と話していました。昨年11月に「小澤洋介チェロの世界」もプロデュースした、この友の会会員、三井千恵子さんは、おいしいアップルパイやヨーグルトパイで雑誌や百貨店の「清里、八ヶ岳展」等で話題の「八ヶ岳パイ工房」を支える素敵な女性です。

コンサートのお知らせ



オーストリア・モンタフォン夏の音楽祭

出演：サント・フローリアン三重奏団
フィリップ・ヤング 三戸素子 小澤洋介

6月8日(日) オーストリア・フォアアールベルグ州ガシューン

ラフマニノフ：ピアノ三重奏曲「エレジー」
ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲第6番 変ホ長調
メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲第2番 八短調

クライネス・コンツェルトハウス Vol.3

出演：三戸素子、小澤洋介、小山貴之(ビオラ) 西澤誠治(コントラバス)
山根公男(クラリネット)、三重野尚子(ファゴット)、藤田乙比古(ホルン)

7月20日(日) 上野、奏楽堂 開演 6:30

全自由席 ¥3,000(友の会割引有)

ベルワルド：大七重奏曲
ニールセン：軽快なセレナーデ
ベートーヴェン：七重奏曲

お問い合わせは、小澤、三戸までお気軽にどうぞ！お待ちしております。
(TEL.0429-45-6326)

サント・フローリアン三重奏団

フィリップ・ヤング 三戸素子 小澤洋介

九州骨髄バンクキャンペーン

7月27日(日) 熊本、益城町文化会館 14時開演
お問合わせ 096-358-5842

28日(月) 鹿児島市民文化ホール 開演 18:30
お問合わせ 0992-24-7436

30日(水) 福岡あいれふホール 開演 18:30
お問合わせ 092-733-9373

友の会は新会員をお待ちしています！

楽しいニュースやコンサートの割引等の特典があります。ぜひお知り合いの方もお誘い下さい！

友の会事務局：神谷まさ子 TEL&FAX.044-854-6227

小澤洋介、三戸素子、フィリップ・ヤング友の会ニュース 第5号



三戸素子リサイタル近づく

4月7日、東京文化会館にて

4年ぶりに素子さんのリサイタルが東京で開かれます。前回のモーツァルトプログラムから今回は、バルトーク・ベートーヴェンで、また一步踏み込んだ彼女ならではのアカデミックなテーマで行われます。

ピアノもバルトークの国ハンガリーのクリスティーナさんで、あの笑顔が2年ぶりで見られます。友の会ニュースの前号でもご紹介した、汗みどろのハンガリー民族舞踊講習のほか、素子さんの今までのエピソードを聞いてみました。

！ 最初食べたときは「なんじゃこれ」と思ったハンガリー料理が、今はとてもオイシイと思っている。

！ 練習の時、素子さんにはわからないハンガリー独特の節まわしや響きをクリスティーナさんが一生懸命説明しても素子さんにはわからず自己不信におちいり、泣きなくなったが、根気よく続けたおかげで、やっと耳に聞こえるようになり、いまでは他人の違いも聴き分けられるようになった。その上2月にブダペストでコンサートをした時、ハンガリー人から「ハンガリー人のようだ」といわれ、とても嬉しかった。

！ ベートーヴェンを優美に繊細に奏こうと思うと、どうしてもベートーヴェン独特の無骨さが失われ、かえってスケールが小さくなってしまうので、奏く前はすもうとりの気分でシコをずしずしふんでいる。

！ 練習とは関係ないけど、ブダペストの「ヨーロッパ大陸最初の地下鉄」に乗っているとき、5人のジプシーにとりまかれて財布をすられそうになったが、財布そのものがハンドバックに入っていなかったのと、クリスティーナが変だと早く気がついたので被害はなかった。

ちょうどこの「友の会ニュース」がお手元に届くころ、3月14日にまたハンガリーに飛びこのプログラムによる演奏会がブダペストであり、ますます磨きをかけてのことです。

日本では、この3月7日の文化会館のコンサートのほか、4月4日に川越で、また5日には「友の会会員」の三井さんの主催で山梨県大泉で行われます。友の会の皆様、ぜひおいで下さい。そして応援して下さい。

チケットのお申込みは三戸素子 TEL0429-45-6326、または「友の会事務局」TEL044-854-6227 まで。

クライネス・コンツェルトハウス Vol.2 は大雨

NHK・FM「FMリサイタル」録音、4月3日(木)放送

～銀座でもコンサート～



去る1月24日に行われたクライネス・コンツェルトハウス Vol.2はあいにく当日の午後から雨が降り出し、コンサートの開始前後は大雨になりました。そんな悪条件の中でも、熱心なお客様方が駆け付けてきて下さり、会場の中は音楽と熱気につつまれたひとときになりました。

出演者のメンバーは「靴一足ダメになるような、こんな天気でも来て下さる方々に感謝します。」と語りました。

このシリーズは小澤洋介、三戸素子が主宰、プロデュースしているシリーズで、「名曲を水準の高いナマ演奏で、何しろ楽しめるコンサート」をめざして始められました。Vol.3は7月20日、ベートーヴェンの七重奏曲をメインに予定されています。

また、Vol.1で好評だったシューベルトの八重奏曲の第一楽章をNHKで録音しました。4月3日(木)に「FMリサイタル」で放送されます。放送時間はAM11:30から11:50まで。友の会の皆様、ぜひ聴いてNHKにファンレターを送りましょう！ ちなみにNHKの住所は〒150-01 渋谷区神南2-2-1「FMリサイタル」係です。

それから3月28日には銀座の東京ガス・ポケットパークの「サロンコンサート第41回」に出演します。

小澤洋介、三戸素子、お弟子さんの会

去る2月23日(日)には、青山カワイショップ・コンサートサロンにおいて、お弟子さんのクラスコンサートがありました。半年に一度のペースで行われ、お弟子さんたちはその半年間に勉強した曲を、全部だっけ奏くことができます。ピアノ三重奏などの室内楽もあり、一人で大きな曲を二曲弾く人もあり、発表会というよりコンサートといった感じです。勉強した曲をどんでん人前で弾いて、自分たちのレパートリーにしてもらおうというねらいで、ヨーロッパの音楽大学の校内演奏会の影響を受けています。プログラムには、出演者のプロフィールも載り、小澤先生、三戸先生が一曲一曲の紹介をするので、曲についてもよく分かり、面白く聴くことが出来ます。

よく晴れた日曜日、あのおしゃれな原宿で、皆がんばって演奏したよい一日でした。

連載 三戸素子のバイオリン雑話 その3

私のアマティが作られたのは、1657年ですから、今年で、340才ということになります。いったい何人の人々がこの楽器を手にし、演奏し、そして何人の人々がその音色を聴いてきたのでしょうか。事故や火事にはあわなかったのでしょうか。もし、この楽器がいままで経験談を語りはじめたら、とてもとても面白い話が聞けるだろうな、と思います。

昨年5月、私はニューヨークのカーネギーホールで演奏する機会に恵まれましたが、はじめて会場で練習をした時、急に「あら、この楽器、まえにもここで奏いたことあるんだわ。」と感じる、という経験をしました。ちょっと不思議な感覚でした。

(つづく)

コンサートのお知らせ**3月**

8日(土)

小澤洋介チェロ無伴奏の夕 - ギャラリーコンサート

アズ・イット・イズ(千葉県大多喜町)
40人限定 要予約 03-3953-6312(坂田)

28日(金)

「クライネス・コンツェルトハウス」in 銀座

三戸素子、小澤洋介、山根公男(クラリネット) 他

第41回 東京ガス・サロンコンサート

東京ガス 銀座ポケットパーク3F

¥1,500 6:30開演

モーツァルト：クラリネット五重奏曲

シューベルト：八重奏曲

往復葉書による申込み：3月17日消印有効

〒104中央区銀座7-9-15

東京ガス、ポケットパーク
「サロンコンサート」係

4月**三戸素子、クリスティーナ・ヴェーナー リサイタル**

ベートーヴェン、バルトークプログラム

ベートーヴェン：ソナタ第5番「春」

バルトーク：ソナタ第2番

バルトーク：ハンガリー民謡集

ベートーヴェン：ソナタ第10番 作品96

4日(金) 川崎市 ログハウス お問合わせ：プロアルテムジケ 03-3943-6677

5日(土) 山梨県甲斐大泉、ペンション「ふぁみりい」¥3,000 20:00開演

7日(月) 東京文化会館小ホール ¥4,000 19:00開演

プロアルテムジケ 03-3943-6677 東京文化会館チケットサービス 03-3824-7003
カザルスホールチケットセンター 03-3291-2525 チケットぴあ 03-5237-9990

サンクト・フローリアン三重奏団

バイオリン：三戸素子 チェロ：小澤洋介 ピアノ：フィリップ・ヤング

山梨・Club21 春のコンサート

9日(水) 石和町 スコレーセンター 夜7:30開演 ¥3000 お問合わせ 0552-54-3414(三澤)

10日(木) 清里 ホール・オブ・ホールズ 夜8:00開演 ¥3500 お問合わせ 0551-48-3535

11日(金) 河口湖 円形ホール 夜7:00開演 ¥3000 0555-76-8155(堀内)0555-76-8822(円形ホール)

13日(日) 芦川村 石垣のちんびいホール 昼1:30開演 ¥2000 お問合わせ 0552-98-2588(野沢)

13日(日) 中富町 青原院 夜7:30開演 ¥2000 お問合わせ 0556-42-4191(宮本)

14日(月) 勝沼町 ぶどうの丘 夜7:30開演 ¥3000 0553-44-0355(三森)0553-44-2111(ぶどうの丘)

骨髄バンクキャンペーン 桜の鎌倉

12日(土) 鎌倉 円覚寺白雲庵 2回公演 昼2:00 / 夜6:00 お問合わせ 0463-21-0010(水嶋)



小澤洋介、三戸素子、フィリップ・ヤング友の会ニュース 第4号

新年あけましておめでとうございます

「クライネス・コンツェルトハウス」Vol.2 1/24 へおいで下さい！ 今回會員の皆様全員に、新春特別割引券を同封しています。

昨年8月に上野奏楽堂で大変好評だった「クライネス・コンツェルトハウス」の第2回が今月24日金曜日の夜7時より行われます。今回は弦楽器5人にホルン2本、という編成で、前回にひきつづき充実したプログラムが予定されています。

バイオリンの三戸素子さんに、今回のコンサートについてインタビューしてみました。

「前半ベートーヴェンと後半がモーツァルト、という一見クラシックな構成ですが、最初のホルン2本と弦楽4本の組合せの六重奏曲は、曲の存在もあまり知られていないほど、めったに演奏されることのない曲です。

もともとホルンというのは狩の角笛がルーツという、丘や森にこだまする、空間的ひろがりをもった楽器ですが、そのホルン2本のソロの魅力とアンサンブルの魅力、それに、ひとかたまりの弦楽器を組みあわせることによって、華やかながらまとまりのある一曲が実現しています。

また2曲目の弦楽四重奏曲は、『これぞ苦悩するベートーヴェン！』と思わせる、激しくつきつめてつきつめて、行き場のないほどの追求、そして行きつく先は、そのつきつめることすらが自嘲に変わる、冗談のようなアツという間にぬけきったコーダです。ベートーヴェンは亡くなる時に『そして喜劇は終わった。』と言ったと

いいいます。この曲は彼の人生そのものの象徴なのかもしれません。

後半は、まったくうって変わった天才モーツァルトの神技の音楽です。天才とはいってもモーツァルトの作品にだって出来、不出来はあります。その中でも飛切りの完成度の高さと、うっかりすると取り残されてしまいそうな自由自在ぶりが発揮されているのが、このディベルティメント「ロビニヒ」です。音楽が人々を楽しくさせる為に、また美しさに酔わせてくれる為にあるのだとしたら、この曲はまさに音の楽園といえるのではないのでしょうか。新春、ニューイヤーにあわせて特に選んだ一曲です。」

いかがでしょうか？なかなか期待できそうなプログラムです。

それでは最後に一言、素子さんからのメッセージです。

「私達、音楽家にとって一番誠意をこめた、出来る限り最上のものを目指したものがコンサートです。一生懸命、思いをこめてまた高い完成度を目指して準備しても、一度演奏したコンサートは一度きりです。形になって残ればよいのですが、たまたま私達がつづいているのは『時間』です。ぜひ、コンサート会場に足をお運び下さり、聴きにいらして下さい。私達も、それに応えられるよう、ますます頑張ります。」

コンサートの裏話。サンクト・フローリアン悪夢の日曜日

去る11月15日～18日の4日間には、恒例になった秋のサンクト・フローリアン三重奏団の骨髓バンクキャンペーンコンサートが、会津若松、浦和、船橋、新宿、大井町の5会場で行われました。ご覧のとおり、ハードなスケジュールでしたが、3人はその直前の11月5日に、バンク運動のきっかけとなった友人が7年間の闘病生活の末ついに亡くなってしまったというショックで、もうお見舞いに行くこともないという、やり場のない思いと気落ちをコンサートに転化してツアーに突入しました。

最初のコンサートの会津若松で「夜の公演でウチだけが、6時半開演でなく7時なんです。」とだれかに言われたのがハリついて、3人はコンサートは全て6時半開演と思い込んでしまいました。毎年毎回つつがなく行ってきているので安心しきってました。

今回のツアーで一番のヤマ場と思われた会津若松の日帰りプランも、深夜雪の中の小澤洋介ドライバーがアッパレにこなし、翌日の浦和も美しい教会での感動のコンサート、ホテルも船橋でゆっくり泊まって、今日は夜のコンサートに集中するのみと3日目に望みました。

ゆっくりフィリップに「何食べたい?」「やっぱり和食かなあ。」などとのどかに昼食、「せっかくだからおみやげの買い物でもしておいで。ホテルから会場まで30分くらいだろうから2時半にホテルで待ち合わせよう。」と別れたまでは平和でした。

2時に優雅にあんみつを食べていた洋介氏と素子さんのところへケイタイ電話がなりました。かけてきたのは、唯一骨髓バンクで洋介氏のケイタイの番号を知っていた、友の会の会員でもある若木氏、「開演時間です。」

洋介氏「何時ですか?」

若木氏「2時です。」

洋介氏「今、何時ですか?」

若木氏「2時です。」

洋介氏「……………」

洋介氏は黙ってケイタイを素子さんに渡し、自分はレシートをもってレジに向かい、素子さんは、「出来るだけ早くいから、何か骨髓バンクのお話をして下さい。」と半分実感のないと楽観主義で対応。デパートの館内放送で「ミスターヤング」と呼び出してもらったにもかかわらず、船橋のデパートでは物足りずとを徘徊していたフィリップには伝わらず、結局2時半にホテルに戻ってきたところをつかまえて、ケイタイ電話で道を先導してもらいながら会場についたのが2時55分。超特急5分で着替えて、知りもせぬホールの音響に不安を覚えつつもプログラムをこなしました。

さすがは、数々のシンポジウムで慣れている骨髓バンクのスタッフで、会場に手伝いに来ておられた骨髓移植の専門医や、骨髓提供者、また移植によって助かった元患者の小児科のお医者さん等、次々と舞台に送りだして1時間をつなぎ、途中で帰ったお客様は一人もおられなかったのです。サンクト・フローリアンの三人は「開演時間になっても燕尾服のボタンがかからなくて着替えられない、とか会場に行きつかない、という悪夢はよく見ますが、まさかホントにおきるとは思いませんでした。これからは日曜日の開演時間に注意します。」と語りました。

珠玉の一夜となった「小澤洋介チェロの世界」 会員、三井千恵子さんプロデュース

去る11月29日は、山梨県大泉村の森の中の音楽ペンション「ふぁみりい」のすっきりした木造のホール、落葉松（からまつ）ホールで、友の会会員の三井千恵子さん主催で「小澤洋介チェロの世界」がひらかれました。

雪の舞うしんと静まりかえった森の中にホールのあかりが灯り、次々と地元の人々、遠来の人々が車で訪れました。100名余でいっぱいになった明るいアメ色のホールの中で、バッハの無伴奏チェロ組曲第一番とゴダールの無伴奏チェロソナタの、チェロただ一本のプログラムが奏でられました。チェロの心地よい音色に包みこまれるようなひとときでした。

コンサートの後は、そのまま軽食をつまみながらのパーティーになり、山梨県の「友の会」の会員の方々と交流の場ともなりました。

連載、三戸素子のバイオリン雑話 その2

アマティというバイオリン製作者のことを、皆様はどのくらいご存じでしょうか。

奇跡のバイオリン制作の町クレモナのその栄光の発端を担ったのが、ニコラ・アマティで1596年に生れ、1684年に88才で亡くなりました。そしてあの有名なストラディヴァリウス(1644-1737)の師匠でもありました。アマティは、上質の木、というものにこだわった製作者で、近辺の山々を歩き、その後のクレモナの製作者たちの基礎にもなるべき素晴らしい銘木を集めました。彼の作った楽器は、美しい木で繊細に作られた優美なものが多いのです。

ストラディヴァリウスも計算してみると93才まで生きたことになりませんが、天才的な人々が一生かけて追求し、おまけに長生きをしてそれが2代にも続き、それも一人でなく家族ぐるみで名器をつくり出していったのですから、クレモナの町が栄えたのも当然かも知れません。（つづく）

三戸素子ハンガリー体験記

4月7日のリサイタルの準備

素子さんは久しぶりに大きなリサイタルを予定しています。今度のプログラムはバルトーク/ベートーヴェン。オーストリアの音楽はすっかり染みついています。バルトークはハンガリーの民謡を多く研究した作曲家。ハンガリー独特の音楽を体得しないとイメージのバルトーク音楽に近づけない、と素子さんはここ数年、ブダペストに通っています。

12月に、またリハーサルのために4日間、ピアニストのクリスティーナの所に滞在した素子さん、白熱した練習の合間に、今回は、ブダペスト音楽院の「音楽家のためのギムナスティック(体操)」、そして「ハンガリー民謡音楽のライブ、ダンスレストラン」でたっぷり汗を流しました。ダンスレストランは、ディスコの民族音楽版といったところで、たくさんの若者が、様々なリズムにあわせた複雑なステップをふみ、ソロで、カップルで踊りに興じています。

クリスティーナと素子さんは、お店の専属の踊り手による手ほどきをうけ、何種類かのステップのパターンを教わりました。

生演奏のバイオリンやコントラバスにあわせ、夢中で足をもつれさせているうちに、いつのまにか加速したスピードに乗せられて「タ・タ・タン・ハイ！！」とやっていたそうです。

コンサートのお知らせ

1月

11日(土)「若芽の会」中山朋子先生門下生の会
30回チャリティーコンサート
ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ第10番ト長調
世田谷区民センター 夜7時より 入場料¥1000
三戸素子、青池春美(ピアノ)

クライネス・コンツェルトハウス Vol.2

三戸素子、小澤洋介、小山貴之(ピオラ) 藤田乙比古(ホルン)他
ベートーヴェン：六重奏曲、弦楽四重奏曲「セリオース」
モーツァルト：ロビニヒ
24日(金) 奏楽堂 18:30開演 ¥3,000

2月

14日(金) 室内楽の楽しみx パルテノン多摩小ホール
小澤洋介、ゲスト出演 その他の出演、工藤由紀子(バイオリン)
福本とも子(ピオラ) 金元(クラリネット) 金詠子(ピアノ)
¥2,500
モーツァルト：ピアノ四重奏曲 変ホ長調 KV493
ブラームス：ピアノ三重奏曲 第一番 口長調 作品8

23日(日) 小澤洋介、三戸素子のお弟子さん発表会
クラスコンサート Vol.2 青山カワイサロン

3月

28日(金)「クライネス・コンツェルトハウス」in 銀座
三戸素子、小澤洋介、山根公男(クラリネット)他
東京ガス 銀座ポケットパーク ¥1,500 6:30開演
モーツァルト：クラリネット五重奏曲
シューベルト：八重奏曲
往復葉書による申込み：
〒104中央区銀座7-9-15
東京ガス、ポケットパーク
「サロンコンサート」係

8日(土) 小澤洋介チェロ無伴奏の夕 - ギャラリーコンサート -
アズ・イット・イズ(千葉県大多喜町) ¥2,500 予定
40人限定 要予約 03-3953-6312(坂田)

4月

三戸素子、クリスティーナ・ヴェナー リサイタル

ベートーヴェン、バルトークプログラム

ベートーヴェン：ソナタ第5番「春」
バルトーク：ソナタ第2番
バルトーク：ハンガリー民謡集
ベートーヴェン：ソナタ第10番 作品96

5日(土) 山梨県甲斐大泉、ペンション「ふぁみりい」
¥3,000 20:00開演

7日(月) 東京文化会館小ホール
¥4,000 19:00開演

小澤洋介、三戸素子、フィリップ・ヤング友の会ニュース 第3号

サンクト・フローリアン三重奏団、アリゾナ砂漠でコンサート

9月28日、アリゾナのフェニックス空港から車で一時間余りの町、アルコサンティで、サンクト・フローリアン三重奏団はコンサートを行いました。あたりは灌木が丈1メートル位にしか育たず、ニョキニョキ突っ立っているのはサボテンばかり、道路沿いの植えこみもサボテンが案配よく植えられておりました。湿度はほとんどなく、唇がパリパリ、ニッと笑うとプチッと割れて口を血まみれにしてごあいさつをすすごしました。日中は透明な陽射しがけっこう強く、日焼けどめをぬってもこんがり茶色に焼け、夜はカーディガンがないと寒くておちおち満天の星やキラキラの月をながめていることすら出来ません。

アルコサンティというのは、イタリア生まれの建築家、パオロ・ソレリ氏が25年前より一つの町全体を設計、こつこつボランディアや、ロマンある若者、また建築家の卵達によって建てられ、現在全てのプロジェクトの20%ほどが完成している「工事中」の町で、その独自性でけっこう建築界では有名で、世界各国のスタッフによって運営されています。町の中心部にあるホールは、半分屋内、半分野外劇場で、舞台の脇に水がながれたりしていて、風流な趣き、音響も意外に素晴らしく、華やいだ一晩になりました。ソレリ氏自ら立ちあがってのアンコールで、観衆も総立ちの拍手になりました。



アルコサンティ完成予定図

アリゾナ・サボテンボールペンを2名の方にさしあげます。!

アリゾナみやげのボールペンを2名の方にさしあげます。どしどし事務局までご応募ください。〆切は11月10日、当選発表は次回ニュースレター第4号に掲載させていただきます。

菜食主義者 ティモシー・レーベンスクロフト氏、無事日本滞在を終え、帰国

小澤洋介、三戸素子がアリゾナから帰国した翌日より、イギリスからティモシー氏、略してティムさんが来日、シューベルトの「アルペジオネ」と「ピアノ五重奏 ます」のプログラムで岐阜と所沢で計4回、コンサートがありました。岐阜の山岡町と日吉町は、「日本一の農村風景」として選ばれたこともある緑と黄金の稲穂、立派な農家のたたずまいで、コスモスも咲きみだれていました。所沢は小澤洋介、三戸素子の地元で、すでに定期コンサート72回というシリーズです。

コンサートは、シューベルトの「ます」をいかに新鮮に面白く聴いてもらうか、ということをおき、はじめにシューベルトの「言葉」を知っていただくために「アルペジオネ・ソナタ」。そして「ピアノ五重奏 ます」の編成の大事なパートを受けもつピオラ、チェロ、コントラバスの3つの低弦楽器の曲を一曲、そして「ます」という構成でした。

三戸素子は最後の「ます」にしか出演しないため、安心して前半、ティムさんへのインタビューや、楽器紹介のコーナーを設け、三戸素子本人も知らなかった「コントラバスに5本弦の楽器がある理由」や「調弦の仕方」等、けっこう面白かったのではないのでしょうか。

ピオラの福本さん、コントラバスの前田さんのご両人ともオーストリア生活が長かった方々で、ドイツ語で練習、シューベルト解釈も一致して音楽に集中して演奏することが出来ました。ティムさんと小澤洋介、三戸素子はかれこれ15年になる付き合いでフィリップ同様たびたび演奏を行っており、小澤洋介は彼とベートーヴェンのチェロソナタ全曲演奏会を、近年のうちに計画することにしています。

ティムさんの菜食主義はやはりお世話する者泣かせでしたが、ホテルやレストランの厨房の皆様の柔軟な対応で、「サラミぬきピザ」、「肉なし焼きそば」等でのりきり、あとは、山菜やキノコ料理を楽しんでもらいました。三戸宅にも、会員の佐藤幸子さんよりご飯にのせるとおいしい「醤油風味のごま」、また三井千恵子さんより「甲州ぶどう」、所沢、松井クラシックの八木雅子さんより、お手製の「栗ごはん」を差し入れていただき、ティムさんに日本の味、手作りの味を味わってもらうことが出来ました。お心遣いをいただいた皆様にはあらためて、この紙面を借りて御礼申し上げます。

追記

ティム氏にはご満足いただけましたが、まわりの人間？は、その影響で肉、魚にありつけず、数少ないチャンスには意地きたなくステーキを注文して、がつついたのでした。

新連載、三戸素子の愛器雑話 第一回

前回、読者の質問コーナーで、私が現在3つの楽器を使っていることをご紹介させていただきました。一つ一つ愛着のあるエピソードも多い楽器達です。とてもいっぺんには語りつくせませんので、この機会に連載で楽器のお話をすることになりました。

私の3つの楽器の中で、一番古顔の楽器がニコラ・アマティの1657年作のバイオリンです。私が桐朋学園に在学中、以前のフランスの楽器では満足できなくなって買い替えることになり、一年以上かけてたくさんの楽器を見て、探して探してその揚句に手に入れた楽器です。香港の世界的有名な収集家のもので、ホンコンまで打診をして、やっと譲ることを承知してもらった美しい楽器です。はじめて手にした時のその姿の優雅さ、今まで何人の人が手にしていたのか、すり減った渦巻、従にも曲線にも何層にも見える神秘的な深みのある木目、全てに魅せられる感動は、今でも変わりません。ロンドン、パリ、ベルリン、ニューヨークと、どこの楽器やさんでも感嘆の声をもって迎えられ、またすれちがった多くの著名な演奏家の敬意をあびるこの楽器を、私は本当に誇りをもって、また感謝をもって大事にしています。(以下次号)

読者の質問コーナー

Q. フィリップさんは、いったいどんな人物なのでしょう？（本野義雄さんより）

A. フィリップさんは4人兄弟の3番目、お父さんは中国系3世、お母さんは数奇な生いたちの2世ですが、彼はずっと英語で育ち、中国語はいくつかの料理の名前くらいしかわかりません。でも、オーストリア滞在でドイツ語、俣歌曲やオペラの伴奏のスペシャリストとしてフランス語やイタリア語もわからないことはないようです。料理をはじめ、家事も男の人にしてはよくやるし、野外を歩きまわるのが好きで、とても品行方正な生活を送っています。（三戸素子談）

皆様もこのコーナーに質問をお寄せ下さい。！！

恒例の秋のサンクト・フローリアン三重奏団・骨髄バンクキャンペーン

サンクト・フローリアンの3人の共通のお友達、ピアニストの金井いづみさんの為にはじめた骨髄バンク支援の秋のキャンペーンも今年で5回目になりました。

不治の病といわれている白血病の唯一の治療法が骨髄移植と聞き、なんとか金井さんが骨髄移植が出来るように、とコンサートを開くようになったのが1992年の秋、東京、千葉、神奈川県3県でした。

その後、埼玉、福島が加わり、神奈川は一昨年より桜の4月に円覚寺でコンサートが定着しましたが、毎年11月は、他の1都3県でキャンペーンを行っています。3人は、キャンペーンコンサートといっても、よい演奏、充実したコンサートにすることが、一番よいキャンペーンだろうと考えています。そんな演奏のせいか、骨髄バンクのボランティアの方々も、コンサートを楽しみにして下さり、他のコンサートにもいらして応援して下さったりしています。

今回のプログラムは、ラフマニノフ作曲のピアノ三重奏曲「エレジー」、ベートーヴェンの黄金期の作品で、かくれた名曲ピアノ三重奏曲第6番、そして5年ぶりのリバイバル、メンデルスゾーン第2番のトリオです。フィリップは、11月13日来日、15日より18日まで、各都県をまわり、そして最後の東京のコンサートの翌日19日には、ロサンゼルスに発つことになっています。

コンサートのお知らせ

11月

サンクト・フローリアン三重奏団

骨髄バンク・キャンペーンコンサート

バイオリン：三戸素子 チェロ：小澤洋介 ピアノ：フィリップ・ヤング

ラフマニノフ：ピアノ三重奏曲「エレジー」

ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第6番 変ホ長調 作品70の2

メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲 第2番 八短調 作品66

15日（金）19時より 会津若松市文化福祉センター

16日（土）18時30分より 浦和バプテスト教会

17日（日）14時30分より 千葉県立 薬園台高校文化ホール

18日（月）12時20分より 新宿モノリス（新宿西口モノリスビル1Fロビー）

18時30分より 東京品川区総合区民会館「きゅりあん」JR大井町駅前

このコンサートは、「友の会」会員の方は2割引になります。事務局（044-854-6227）の方までどしどしお申込み下さい。

小澤洋介のチェロの世界

バッハ：無伴奏チェロ組曲 第1番 G-dur

コダーイ：無伴奏チェロソナタ

29日（金）山梨県北巨摩郡大泉 ペンションファミリー「落葉ホール」

12月

13日（金）同仁キリスト教会 室内楽コンサート

小澤洋介、前田芳彰：コントラバス 他

ベートーヴェン：七重奏曲、ドボルザーク：五重奏曲

14日（土）仙台市、小児ガンの子供のためのチャリティーコンサート

小澤洋介、菊池真美（ピアノ）

シューベルト「アルペジオーネソナタ」 他

19日（木）盛岡市

小澤洋介、菊池真美（ピアノ）

シューベルト「アルペジオーネソナタ」 他

1月

11日（土）「若芽の会」世田谷区民センター 夜7時より

三戸素子他

ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ第10番ト長調

クライネス・コンツェルトハウス Vol.2

ベートーヴェン：六重奏曲、弦楽四重奏曲「セリオソ」、モーツァルト：ロビニヒ

24日（金）奏楽堂 18：30

小澤洋介、三戸素子、フィリップ・ヤング 友の会ニュース 第2号**8月23日「クライネス・コンツェルトハウス」第1回を終えて**

新しいコンサートシリーズ、「クライネス・コンツェルトハウス」の第一回が、8月23日、上野公園内の重要文化財の建物、奏楽堂で行われました。趣きのあるホール、ミニオーケストラともいえる8人の編成、そして大曲、シューベルトの八重奏曲をはじめとする変化のあるプログラムに、大勢の方々から好評のメッセージが寄せられ、上々のスタートを切ることが出来ました。

メッセージの中には、「コンサート後、上野公園の星空を見上げながら帰った」とか「三戸素子さんの首にあてるハンカチが赤くておしゃべりだった」、また「洋介さんは少しダイエットをしても良いかもしれない」というものもありました。

半年に一回のペースで続けていく予定のこの「クライネス・コンツェルトハウス」、新年1月24日の第二回目もどうぞご期待下さい。

9月のミートス室内合奏団の山梨、神戸公演

山梨県清里にあるオルゴール博物館「ホール・オブ・ホールズ」は、小澤洋介、三戸素子、フィリップ・ヤングにとって、ホームグラウンドとでもいうべき、自分の家のような気にさせてくれる特別な愛着のあるホールです。木造で落ちついた雰囲気、高い天井、年代物のオルゴールたちに囲まれての音楽は、安心して自己を開放して音楽の中に入っていくことが出来るような気がします。サンクト・フローリアン三重奏団で、毎年、春に演奏していますが、2年前から、秋にはミートス室内合奏団として大きな編成の室内楽の公演をするようになりました。今年で3回目、弦楽四重奏とホルン2本の編成で、ベートーヴェンの六重奏曲と弦楽四重奏曲「セリオソ」そしてモーツァルトの名曲、ディベルティメント「ロビニヒ」のプログラムで、ますますの充実をはかりました。また今年は一昨年に続き、「ホール・オブ・ホールズ」の提携の博物館の「神戸、ホール・オブ・ホールズ六甲」でも秋の連休の一日に公演が行われます。今、阪神電鉄の車両の中にはカラーの写真入りのポスターが、吊り広告になっています。

今回のこのプログラムは1月24日「クライネス・コンツェルトハウス Vol.2」で登場する予定です。

読者の質問コーナー

Q. 三戸素子さんの持っているバイオリンについて教えてください。(神谷まさ子さんより)

A. 三戸素子： 私は今、三つの楽器を併用してつかっています。どの楽器も私にとってかけがえのない愛着のある楽器です。どの楽器で演奏するかは、いつも悩みのタネで、われながらぜいたくな悩みだと思っています。一つはニコラ・アマティの1657年の作で、これはかれこれもう17年間、私を支えてきてくれました。もう一つはJ.B.グァダニーニの1777年作、スイスの私の第二の家族とでもいうべき存在のルツィア・ビューラーさんから4年ほど前からお借りしているものです。そしてもう一つは、日本人のバイオリン製作者、植木繁氏の手による1995年作の楽器です。どの楽器も私のもとにくるようになったいきさつがあり、エピソードがあります。このエピソードは次号より連載でお話ししようと思います。

皆さんもどしどし事務局まで、いろいろなご質問をお寄せ下さい!

小澤洋介、インターネットのホームページを開設へ

コンピューターが大好きな小澤洋介は、ついにインターネットの独自のホームページを開設中で、今のところ、「室内楽の楽しみ、チェリスト小澤洋介のホームページ」と「クライネス・コンツェルトハウス」の2つが、ほとんど仕上がりに近づいています。先日、オーストリアの音楽についてのホームページを検索していたら、なつかしのザルツブルク室内オーケストラ、「モーツァルト・セレナーデ」がホームページを出しているのを発見、その中に使われている演奏会写真で弾いているのはなんと洋介氏自身ということで、ますます独自のページ、開設にイメージがわいたようです。どんなページに仕上がるか、注目されます。

10月 シューベルトのピアノ五重奏曲「ます」のコンサート近づく

「フィリップが10月は忙しくて来日できない!」ということで、ロンドンから助っ人としてイギリス・ジェントルマンのティモシー・レーベンスクロフト氏、愛称ティムさんがやって来て10月の岐阜県恵那と、所沢の地元、松井公民館で共演してくれます。彼は長年ウィーンで勉強しただけあって、シューベルトやベートーヴェン等の「ウィーン古典派」の音楽がとて上手です。ピオラの福本さん、コントラバスの前田さんのお二人もウィーンやザルツブルクに留学していらした方々なので、オーストリアの香りを出せるのではないかと楽しみです。ただ、問題は、ティムさんが菜食主義者で、お肉、お魚が全くダメなので、野菜のほかは、卵とお豆腐で食事を用意しなければならないことです。

ティムさんは、日本滞在中は、移動日以外は基本的にフィリップ同様、小澤、三戸宅に泊まることになっていますが、その間は三戸素子がヤサイ料理を作る予定なのでナントカなるのですが、旅先のレストランでは、いったい何を食べてもらえばいいのでしょうか。おそばだっておつゆがカツオだしなので、何かアイデアがあったら、三戸素子までご一報下さい。

9月23日より10日間 アメリカ公演へ

サント・フローリアン三重奏団は、アメリカのロサンゼルスとアリゾナ州アルコサンティでコンサートがあります。アリゾナ州でのコンサートは、トリオにとって初めてです。そしてコンサートが開催される町アルコサンティはとても面白い町で、アメリカでは有名な町なのだそうです。ある建築家が町全体をデザインして建てているのだそうで、いったいどんな町なのか楽しみです。その体験談を「友の会ニュース」の次号に掲載する予定です。

秋のコンサートのお知らせ**9月 サント・フローリアン三重奏団**

バイオリン：三戸素子 チェロ：小澤洋介 ピアノ：フィリップ・ヤング
ラフマニノフ：ピアノ三重奏曲「エレジー」
マルタン：アイルランド民謡によるピアノ三重奏曲
メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲 第2番 八短調 作品66

25日～30日、アメリカ、ロサンゼルスとアリゾナ州で、上記プログラムで演奏旅行

10月 シューベルトのピアノ五重奏曲「ます」を聴く**ティモシー・レーベンスクロフトとオーストリアでの仲間たち**

バイオリン：三戸素子 ビオラ：福本とも子 チェロ：小澤洋介 コントラバス：前田芳彰 ピアノ：ティモシー・レーベンスクロフト
シューベルト：ピアノとチェロのためのソナタ「アルペジオーネ」
ミハエル・ハイドン：ビオラ、チェロ、コントラバスのためのディベルティメント
シューベルト：ピアノ五重奏曲「ます」

9日(水) 岐阜県山岡町 7:30より

10日(体育の日) 岐阜県日吉町 7:30より

12日(土) 14時より 所沢市松井公民館 ¥1500 前売り¥1300(電話予約可)

主催 松井公民館 松井クラシックのつどい TEL.0429-94-1222

ミートス弦楽四重奏団

バイオリン：三戸素子 バイオリン：石田泰尚 ビオラ：榎戸崇浩 チェロ：小澤洋介
モーツァルト：セレナーデ「アイネ クライネ ナハトムジーク」ト長調 K525
コダーイ：弦楽四重奏曲 第2番 作品10
ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲 第12番 「アメリカ」へ長調 作品96

20日(日) 14時より 神奈川県藤沢市 時宗総本山「遊行寺」藤沢駅北口より徒歩15分

前売¥3000 当日¥3500 お問い合わせ/0463-32-9943(駐車場あるそうです。)

このコンサートは、「友の会」会員の方は2割引になります。事務局(044-854-6227)の方までどしどしお申込み下さい。

11月 サント・フローリアン三重奏団**骨髄バンク・キャンペーンコンサート**

バイオリン：三戸素子 チェロ：小澤洋介 ピアノ：フィリップ・ヤング
ラフマニノフ：ピアノ三重奏曲「エレジー」
ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第6番 変ホ長調 作品70の2
メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲 第2番 八短調 作品66

15日(金) 19時より 会津若松市文化福祉センター

16日(土) 18時30分より 浦和バプテスト教会

17日(日) 14時30分より 千葉県立 薬園台高校文化ホール

18日(月) 12時20分より 新宿モノリス(新宿西口モノリスビル1Fロビー)

18時30分より 東京品川区総合区民会館「きゅりあん」JR大井町駅前

このコンサートは、「友の会」会員の方は2割引になります。事務局(044-854-6227)の方までどしどしお申込み下さい。

小澤洋介のチェロの世界

バッハ：無伴奏チェロ組曲 第1番 G-dur

コダーイ：無伴奏チェロソナタ

29日(金) 山梨県北巨摩郡大泉 ペンションファミリー「落葉ホール」

「友の会」会員募集中！ ぜひ有志の方をご紹介下さい。

小澤洋介、三戸素子、フィリップ・ヤング 友の会ニュース 第1号

6月20日のサンクト・フローリアン三重奏団の演奏会を終えて

6月20日の津田ホール、サンクト・フローリアン三重奏団の演奏会は、おかげさまをもちまして各方面から大変ご好評を頂きました。第一曲目のベートーヴェンの2楽章が良かった方とか、マルタンが面白かった方、ああいう現代曲なら好きと、バルテルに興味をもたれた方、そしてシューベルトがとても良かったとおっしゃってくださった方等々、色々な感想をいただきました。

クライネスコンツェルトハウス第一回、8月いよいよ開始

三年前から、ミートス室内合奏団として、弦楽器と管楽器のアンサンブルを作ってきました。メンバーの一人一人皆、個性的な音楽家で「名曲を名演奏したい」という原点ともいえるべきイメージのある者ばかりです。

今まで山梨県や神戸等で演奏をしてきて好評を頂いてきましたので、それをそろそろ東京でも定期演奏会として、半年ごとに発表していこうということになりました。明治時代に建てられた重要文化財である奏楽堂（上野公園内）のご協力を得て、この8月23日(金)に第一回、そして来年1月24日に第二回と続きます。

第一回は、最初に弦楽器のアンサンブルでモーツァルトのディベルティメントKV136。次が管楽器のアンサンブルで、アイネムの「ネズミとビーバーと熊のセレナーデ」。最後に弦と管が一体となった名曲、シューベルトの「八重奏曲」を演奏いたします。サンクト・フローリアン三重奏団の津田ホールでの演奏会でも、シューベルトのトリオをとりあげましたが、シューベルトには現代の私達が日常耳にするデジタルな響きとは対極のものがあるような気がします。

このコンサートシリーズの第一歩に、ふさわしい曲でふさわしい演奏会になるよう祈っています。

秋のコンサートのお知らせ

9月 ミートス室内合奏団

ベートーヴェン：ホルン2本と弦楽四重奏の為の六重奏曲

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲「セリオソ」

モーツァルト：ディベルティメント「ロビニヒ」KV334

7日(土) 山梨県清里オルゴール博物館「ホール・オブ・ホールズ」

15日(敬老の日) 神戸オルゴール博物館「ホール・オブ・ホールズ」

*この二つの会場は教会のような天井の高いどっしりとした木造のホールで、周りのアンティークオルゴールが共鳴するのか、素晴らしい音響です。

*このプログラムが1月23日のクライネス・コンツェルトハウスVol. 2に登場します。

サンクト・フローリアン三重奏団

25日～30日、アメリカ、ロサンゼルスとアリゾナ州で、新プログラムでの演奏会

10月 シューベルトのピアノ五重奏曲「ます」を聴く

ティモシー・レーベンスクロフトとオーストリアでの仲間たち

シューベルト：ピアノとチェロのためのソナタ「アルペジオーネ」

ミヒャエル・ハイドン：ピオラ、チェロ、コントラバスのためのディベルティメント

シューベルト：ピアノ五重奏曲「ます」

8日(火) 松本

9日(水) 岐阜県恵那

10日(体育の日) 岐阜県恵那

12日(土) 14時より 所沢市松井公民館

*4年ぶり来日のティム氏をむかえて、小澤洋介との「アルペジオーネソナタ」7と「ます」をオーストリア留学仲間の息のあったアンサンブルで。

このほか、10月20日(日)は神奈川県のお寺でミートス弦楽四重奏団、11月は、サンクト・フローリアン三重奏団で、15日福島県会津若松、16日埼玉県、17日千葉県、18日東京品川区総合区民会館「きゅりあん」と骨髄バンクキャンペーンコンサートが続きます。詳細は、演奏者にお気軽にお問い合わせください。(小澤/三戸 0429-45-6326、深夜12時まで大丈夫です)